



# はなのき通信

2020年12月 発行 第146号

編集・発行：あいち国際交流はなのき会

URL <http://www.aichinet.ne.jp/~hananoki/>

Eメール [hananoki@aichinet.ne.jp](mailto:hananoki@aichinet.ne.jp)



## 国際交流に真面目に向き合う

副会長 清水たま子

チャレンジが何の意味かもわからずに、勧められるままに入会して、いくつかの行事に楽しんで参加してきましたが、先輩方のお話を聞くにつれ、私は全くわかっていないと思い知ることになりました。

当会の発足時、選ばれた女性たちには、海外視察団結成の選考のために論文も課せられたといひます。だからこそ、海外に赴くときの意気込みは、気迫に満ちたものであったらと拝察します。そういう方々が、はなのき会の基盤を作られたことを知り、ぼんやりとしてはいけなそう思うようになりました。そこで、名古屋ブロック幹事として、先輩方から直接お話を伺う機会を作り、「国際交流」の意味をおぼろげながら知ることになりました。先日は、生田ふみさんをお願いして、「国際親善とはなにか」というお話をいただきました。私利をもたないで、全身で未開発の地域に飛び込んでいった様子がDVDに残されていました。

ではこれから何をすればよいのか、頭の中は空っぽですが、「国際交流」と表明する以上は、真剣に真面目に取り組むべきであるし、それでない相手様にも失礼であると、まずは自分に言い聞かせています。

## コロナ禍情報収集活動 ルワンダ

東三河ブロック 小久保 美知代さん

姪 鈴木 華世美さんより

夫の仕事で息子と3人で昨年からは住んでいる。来年はボストン勤務となる予定



- ・ 公的な場では、常時マスク着用（布マスクが主流）
- ・ 店舗に入る前には手洗い、検温
- ・ 電子マネーの普及、デリバリーサービスの普及
- ・ 夜間移動禁止
- ・ 必要最低限の人員以外は、テレワーク推進
- ・ 学校は3月のロックダウン以降、未だに閉鎖中（オンライン授業を推進）→高学年から順に、年末から年始にかけて再開予定

周りの日本人や外国人の大半が、3月後半の国境閉鎖前にさーっと緊急帰国したので、残された組はとても不安でしたが、結果的には物流も含めて大きな問題はありませんでした。

ルワンダは政府の力が強いので、コロナ対策においても統制がとれており、安心感がありました。学校が長い間閉鎖中であり、息子は年齢的にまだオンライン授業は集中できないので、とても大変です。

(2020年11月収集)

## ブロック活動 知多より

- ・10月20日(火)
  - ・陶芸家・英会話講師 アルバート・サスラー氏をお迎えして講演会
  - ・東海市 西方寺(深谷宅) ・参加者 会員と外部の方と 16名
- 早速にお抹茶をいただいて、講演に入りました。

アルバート氏はサイクリングが好きで全国を回ってみると、祭りも少なくなったり衰退していることや、緑が伐採されていても植樹が見受けられず残念に思うと、とても強く感じていると言われました。しかし日本の歴史文化はとても素晴らしいとスライドを見ながら言葉厚く語られました。教室での子どもたちの様子も随分変わってきているが頼もしいと。現在、常滑に住んで、陶芸にも力を入れ、自作のお茶碗を披露されました。その後の質疑応答も話が弾みあつという間に時間が来てしまいました。楽しいひと時に感謝します。

報告 深谷



テーマ 日本文化を  
忘れないで

## ブロック活動 名古屋より

- ・10月5日(月) 10:00~12:00
- ・講師 名古屋ブロック 生田ふみさん ・国際プラザ1F 小会議室
- ・参加人数 7名

生田さん達は2014年夏、ウズベキスタンへ行かれています。(ウズベキスタンは中央アジアに位置する。首都はタシュケント)きれいに編集されたDVDを見ながら、交流の様子を話していただきました。

「始まりはまず一本から緑の大地に」を掲げての植林の旅でした。ウズベキスタンはシルクロードの要衝の地にあり、夏の最高平均気温は40度、冬の平均最低気温は-20度と寒暖差が激しい。水も少ない中、現地の小学生と一緒に木を植え、歌や踊りの文化交流の旅が写されました。

第二次世界大戦中、この砂漠の地でシベリア抑留の日本人捕虜が町をつくるために必死に働き、今でも「日本人のような大人になりなさい」と言い伝えられている

そうです。国際親善とは、まず知り、理解し、行動することと  
思いました。はなのき会の先輩は、ベトナムへミシンを送ったり、  
カンボジアで女性会議を開いたり、また、アフリカ支援も  
されたそうです。私たちも人と人がつながるようなことを、  
小さなことからやっといこうと心から思いました。報告 松原

テーマ  
国際親善とは何か



## はなのきセミナーⅠ 開催の報告です。

2020年11月21日(土) 10:00~12:00 場所: JICA 中部なごや地球ひろば

SDGsに貢献する JICA 海外協力隊~活動を知ろう!!応援しよう!!~

計画から実施までの約6か月間、コロナ禍の封鎖や解除の報に胸をなでおろしたり、ハラハラしたりしながらも実施に至りました。当初の計画より縮小し、慎重に行い、終えたときには、安堵するとともに参加された方々への感謝の思いがこみ上げてきました。

はなのき会会員の出席が18名、会員紹介が14名、共催した支援する会の関係者12名に登壇者、育てる会の事務局次長、チラシを見て来られたという大学生が1名で、ちょうど定員の50名になりました。

両会長ご挨拶の後、「JICA 海外協力隊事業とは」と題して、JICA 中部市民参加協力課国内協力員の都筑慎也氏による講演がありました。

JICA の SDGs とのかかわりから事業の概要、発足から55年間の変遷、そして with コロナでは、この4月末までに全世界の隊員が日本に一時帰国したこと、その後の状況等々を丁寧に話されました。



活動報告①では、マラウイ共和国でエイズ対策にかかわって来られた元青年海外協力隊の石田くみ子氏が民族衣装を着て、途中、現地の音楽を入れながら楽しくスピーチをされました。中学生の頃、ドキュメンタリー映画を観て海外での活動を胸に秘めていたところ、東日本大震災で勤めていた会社が打撃を受け、退社をきっかけに、アフリカへ行こうと決心されたということです。2年間の務めを終えたものの、いくつかの課題を残し、帰されてからは、当時ケニアの事務所の管理者だった元青年海外協力隊の夫と共に NGO を立ち上げ活動中だそうです。夫も顔を見せてくださり、この力強いご夫婦に大きな拍手が起こったのは言うまでもありません。



活動報告②は、名古屋在住の、元シニア海外協力隊の奈田俊さんの報告でした。日本で働きながらいつか海外でとの思いをもっていたとのこと。ミクロネシアとパラグアイへ2回派遣されています。もっと行きたかったけど、年齢制限(69歳まで)があって行けなかったと残念そうに言われました。臨床検査技師として活躍されました。両国の医療事情のみならず、国の様子も紹介されました。パラグアイでは、日本人の移住が現地で開拓を始めて80年、そこで聞かれたその当時の苦労にもお話が及びました。

(名古屋ブロック 清水)

会員の皆様 いかがお過ごしでしょうか。★★お便りお待ちしております。★★

知多ブロック 渡辺順子さん

静かな老人世帯に孫4人(小4、小2、小1、年中)を急に預かることになりました。コロナ禍で学校が休みになり、爺と婆は突然大忙しに…。小1の孫は入学式15分間学校に行ったのみ。先生のお顔をはっきり覚えることもできず、級友など一人も知らない状態でした。この期間、爺は先生役、婆は昼食とおやつを担当。病気、怪我をさせず両親に渡すことは簡単なようで気疲れする日々でした。学校再開後もコロナは第2波、第3波と押し寄せて、感染者も多い毎日です。早くワクチンできないかなと思うこの頃です。

おめでとうございます!

# はなのき会員さん 大活躍です。



長年にわたって豊田の行政や教育、住民福祉の向上に貢献した人たちの功績をたたえる町表彰状が、四日、同町豊田の町社教育センターであった。本年度は、町選考委員を十二年間務め、公正選挙の実施に寄与した水野喜巳さん(左)・同町豊田と、町議会議員として二十年間、町政の発展に尽力した粟田昌子さん(右)が表彰を受けた。鈴木邦尚町長は、お入

は私たちの誇り。積み重ねられた功績を一つ一つの町政の発展につなげていきたい。とたたえ、表彰状を手渡した。受賞者を代表して粟田さんが、(今後)この受賞に恥じることのないよう、町のさらなる発展のため力を

尾張ブロック  
粟田さんが豊山町より表彰  
されました。  
尾張ブロック  
浅井  
中日新聞 11月

愛知県・ビクトリア州・江蘇省友好提携40周年記念フェスティバル  
会員池上悦美さんの写真が入選、フォトコンテスト優秀作品として、展示  
されました。

- ・オープニングセレモニーは、2020年11月7日(土)・8日(日)
- ・フォトの展示は11月2日(月)～8日(日)
- ・ららぽーと名古屋みなとアクルス

メーリングリストでご案内がありましたので、名古屋ブロック幹事の松原・清水は7日のオープニングセレモニーに合わせて、行ってまいりました。まず、池上さんの写真を見つけ、その後セレモニー会場で式典を見ました。二胡の演奏をかわきりに大村県知事のご挨拶、ビクトリア州知事のビデオメッセージ等々、盛大とは言い難い雰囲気ではありましたが、40周年にふさわしく、関係者の真摯な態度が見る者に伝わってきました。

<34年前のメルボルンでの交流の写真です。>

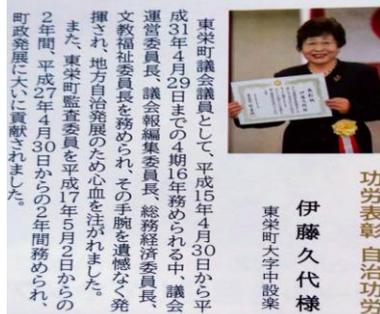


名古屋ブロック  
松原

MLで発信予定



平成5年8月に会員65名で設立され、国際交流に開かれたまっすぐに寄与する事を主旨として活動をされ、国際交流活動の推進と同時に、諸外国との相互理解、友好親善の増進に大いに貢献されました。



東栄町議会議員として、平成15年4月30日から平成31年4月29日までの4期16年務められる中、中議会運営委員長、議会報編集委員長、総務経済委員長、文教福祉委員長を務められ、その手腕を遺憾なく発揮され、地方自治発展のため心血を注がれました。また、東栄町監査委員を平成17年5月2日からの2年間で平成27年4月30日からの2年間務められ、町政発展に大いに貢献されました。



岐阜新聞 12月13日

くるるセミナー ディレクター  
生田 ふみさん (75) 愛知県日進市

**輝きふの女性たち**

シニアに新たな生き方提

「輝きふの女性たち」は、シニア世代の女性たちが、自分たちの生き方を輝かせるための場です。生田ふみさんは、この場を創出し、多くの女性をサポートしています。

(編集後記) 状況をみながらの活動。集うことがこんなにも神経を使うことなのかと。ご担当者の方々のご尽力、お気遣いは例年の何倍でしょうか。改めて感謝を申し上げます。やはり人は誰かと会いたい、集いたいものなのかと最近感じております。今年度は4回目も発行予定です。お楽しみに。 書記一同